

星の銀貨^{ぎんか}

(グリムの話)

昔、両親をなくした、まずしい女の子がいました。持っているものは、着ている服と、パンが一切れだけでした。

女の子が野原を歩いていると、おなかをすかせた男の人に会いました。女の子は、パンをあげました。

次に、寒さにふるえる子どもに、ぼうしをあげました。また次の子どもには、上着をあげました。

夜になり、森に着いたとき、女の子には、ほとんど何ものこっていませんでした。

すると、空から星がふつてきて、ぴかぴかの銀貨^{ぎんか}になりました。女の子は、それから一生、こまることなくくらしただけです。

女の子のやさしい心が、星にとどいたのかもしれません。

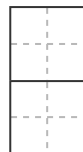
① さいしよに女の子が持っていたものに、入っていないものはどれですか。

ア 着ている服

イ パン

ウ お金

② おなかをすかせた男の人に、女の子は何をあげましたか。



③ 女の子は、どんな人だと言えますか。

--	--

④ 空から星がふつてきたのは、どうしてだと思いますか。

--	--